

TOPICS

デジタル技術で伝統を未来につなぐ —工芸品の三次元計測とデジタルアーカイブ—

繊維生活部 村井 菜月 (むらい なつき)

murai@pref.ishikawa.lg.jp

専門：産業意匠（プロダクト）

一言：デザインについて、お気軽にご相談ください。



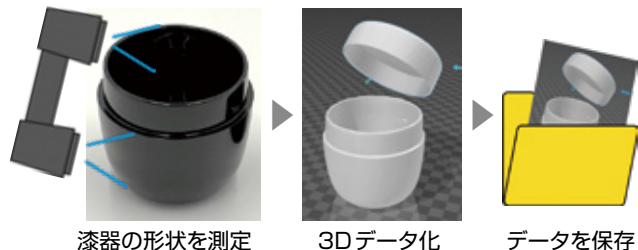
伝統工芸分野では、職人の高齢化や後継者不足を背景に技術や意匠の継承が課題となっています。工業試験場の可搬式三次元デジタイジングシステムは、対象物の形状を3Dデータ化する装置で、工芸品のデジタルアーカイブや設計検討の効率化に役立つことから、伝統工芸分野での活用が広がっています。

漆器分野では、図面が現存しない木地や漆器の形状を測定・記録する取り組みが行われています(図1)。優れた技術や意匠を3Dデータとして保存することで、次世代への継承を支援します。

陶磁器分野では、手作業で成形した粘土原型を3Dデータ化した後、コンピュータ上で形状やサイズを調整し、3DプリンタやCNCルータを用いて製品試作する取組み

が行われています。原型を一から作り直すことなく意匠の完成度を高められるため、開発期間の短縮やコスト削減に貢献しています(図2)。

本装置は、工業製品から伝統工芸品まで幅広い分野で活用可能です。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

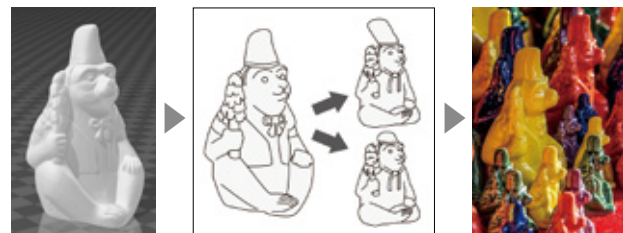


漆器の形状を測定

3Dデータ化

データを保存

図1 棗(なつめ・茶入道具)のデジタルアーカイブ



原型3Dデータ

形状やサイズの調整・出力

製品

図2 九谷焼置物「神猿」の原型作製
(「うさる詣」<https://kaiun.komatsu-kutani-mirai.or.jp/#>)